

# Sun Secure Global Desktop 4.4

## ユーザーガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-2823-10  
2007 年 10 月, Revision 01

このマニュアルに関するコメントの送付先: [docfeedback@sun.com](mailto:docfeedback@sun.com)

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許 (<http://www.sun.com/patents> を参照)、あるいは米国およびその他の国において追加または申請中の特許を含んでいることがあります、それらに限定されるものではありません。

本書およびそれに付属する製品は、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社およびそのライセンサ (該当する場合) の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、AnswerBook2、docs.sun.com および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Adobe は、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは OPEN LOOK GUI を実装する、あるいは米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約書に適合する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに vii

Sun Secure Global Desktop の使用 1

ログイン 1

    ユーザー名とパスワード 2

    ▼ SGD にログインする方法 2

        「安全でない可能性のある接続」メッセージ 5

        ▼ 「安全でない可能性のある接続」メッセージを処理する方法 6

SGD の Webtop 6

    メニューバー 7

    アプリケーション領域 8

    印刷領域 8

    情報領域 8

アプリケーションの使用 10

    アプリケーションの実行 10

    アプリケーションの中断と再開 11

    アプリケーションの表示方法の変更 14

    アプリケーション間での情報のコピー 14

    異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行 15

    1 ボタンの Apple Macintosh マウスの使用 15

## 印刷 16

### 印刷ジョブの管理 16

### UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷 17

### Windows アプリケーションからの印刷 18

### PDF 印刷 20

### 印刷のトラブルシューティング 21

## 設定の変更 22

### クライアント設定 23

### アプリケーショングループ 23

#### ▼ グループを作成する方法 24

### デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用 25

#### ▼ デスクトップの「スタート」または「起動」メニューに SGD を追加する方法 26

#### 「スタート」または「起動」メニューの操作 26

## ログアウト 29

### SGD Webtop からのログアウト 29

#### 「スタート」または「起動」メニューによるログアウト 29

## A. SGD Client の手動インストール 31

### SGD Client のインストール 31

#### ▼ Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法 32

#### ▼ Solaris OS プラットフォームおよび Linux プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法 33

### SGD Client を使用したログイン 35

#### ▼ SGD Client を設定する方法 35

## B. 詳細設定 37

### 詳細設定 37

### クライアント設定 37

ログイン URL の変更	38
言語の変更	38
プロキシ設定の変更	38
代替 PDF ビューアの指定	38
印刷	38
クライアントプリンタの設定	39
コンピュータ上のドライブへのアクセス	39
C. クライアントプロファイルの設定	41
クライアントプロファイル設定の説明	41
統合モード動作の設定	43
用語集	45
索引	49



# はじめに

---

『Sun Secure Global Desktop 4.4 ユーザーガイド』では、Sun Secure Global Desktop software (SGD) の使用方法を紹介します。このマニュアルでは、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法についての情報を提供します。このマニュアルは、SGD の新規ユーザーおよび既存ユーザーの両方を対象としています。

---

## 内容の紹介

第 1 章では、SGD を使ってクライアントデバイスからアプリケーションを実行する方法について説明します。

付録 A では、SGD Client をコンピュータに手動でインストールする方法について説明します。

付録 B では、SGD の上級ユーザー向けの設定について説明します。

付録 C では、利用可能なクライアントプロファイル設定について説明します。

用語集は、単語や語句の一覧とその定義です。

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次の追加リソースに関する情報を提供しています。

- マニュアル (<http://www.sun.com/documentation>)

- サポート (<http://www.sun.com/support>)
  - トレーニング (<http://www.sun.com/training>)
- 

## サードパーティーの Web サイト

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。Sun は、そのようなサイトやリソース上に存在する、またはそれらを通じて得られる、あらゆる内容、広告、製品、またはその他の資料を保証するものではなく、それらに対するいかなる責任または義務も負いません。Sun は、そのようなサイトやリソース上に存在する、またはそれらを通じて得られる、それらのあらゆる内容、商品、またはサービスによって、またはそれらの使用に関連して、またはそれらを信頼することによって生じた、実際の損害または損失あるいは主張される損害または損失に対する、いかなる責任または義務も負いません。

---

## コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。コメントの送付先は次のとおりです。

[docfeedback@sun.com](mailto:docfeedback@sun.com)

フィードバックには、次のようにマニュアルのタイトルと Part Number を含めるようにしてください。

Sun Secure Global Desktop 4.4 ユーザーガイド、Part Number 820-2823-10



## 第1章

---

# Sun Secure Global Desktop の使用

---

Sun Secure Global Desktop software (SGD) は、アプリケーションサーバー上で実行されているデスクトップアプリケーションに対する、セキュリティー保護されたりモートアクセス機能をユーザーに提供します。

SGD を使用すると、オフィス内のコンピュータでレポートを作成することも、自宅の PC 上で UNIX® プラットフォームのサーバーを管理することも、列車内でノート PC を使って株価データベースを調べることも、すべてが可能になります。

また、セキュアセットワーク接続経由でアプリケーションを実行することにより、企業データや個人情報を保護できます。

SGD を使用すると、実行可能なすべてのアプリケーションを 1 つの場所 (Webtop) から利用できます。

Webtop にアクセスするために必要なものは、Java™ テクノロジーに対応した Web ブラウザだけです。

このマニュアルでは SGD の基本的な使用方法について説明します。このソフトウェアにログインおよびログアウトする方法や、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法について説明します。

---

## ログイン

ここでは、SGD にログインする方法について説明し、SGD の Webtop を表示します。

# ユーザー名とパスワード

SGD を使用する場合、次の各サーバーのユーザー名とパスワードを知る必要があります。

- SGD サーバー
- アプリケーションを実行するアプリケーションサーバー

次の表では、SGD を使用する際に必要となる可能性のあるユーザー名とパスワードについて説明します。

ユーザー名とパスワード	説明
SGD サーバー	SGD にログインする際に、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。これは、SGD サーバーがユーザーを認識し、そのユーザーの Webtop を表示できるようにするユーザー名とパスワードです。SGD への次のログイン時まで、このパスワードを再度入力する必要はありません。 また、匿名で、つまりユーザー名とパスワードを入力せずに、SGD にログインすることもできます。
アプリケーションサーバー	アプリケーションを起動する際に、アプリケーションを起動するアプリケーションサーバー用のパスワードを入力する必要があります。SGD サーバーはこれらのパスワードを記憶できるため、ユーザーがそれらを毎回入力する必要はありません。ユーザー名とパスワードの入力時に「このパスワードを保存する」オプションが使用できる場合は、それを使用します。 別のユーザー名とパスワードを使ってアプリケーションを起動したい場合、SGD にユーザー名とパスワードの入力を要求させることができます。

## ▼ SGD にログインする方法

SGD にログインする前に、次の要件が満たされているか確認してください。

- JavaScript が Web ブラウザで有効になっている
- Java テクノロジーが Web ブラウザで有効になっている

注 – Java テクノロジーが Web ブラウザで有効になっていない場合は、SGD Client プログラムをコンピュータにダウンロードできます。詳細については、[31 ページの「SGD Client のインストール」](#)を参照してください。

- SGD サーバーのユーザー名とパスワードがわかっている。ユーザー名とパスワードが不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。

- SGD サーバーのログイン URL がわかっている。SGD ログインページの URL が不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1. Web ブラウザを使用して SGD のログイン URL にアクセスします。

SGD のログイン URL は通常、`http://server.example.com/sgd` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

---

注 – Java テクノロジが Web ブラウザで有効になっていない場合、警告メッセージが表示されます。処理を続行するには、Java テクノロジをブラウザで有効にする必要があります。

---

SGD ログインダイアログボックスが表示されます。

図 1-1 SGD ログインダイアログボックス



---

注 – JavaScript が Web ブラウザで有効になっていない場合、ログインダイアログボックスの下に警告メッセージが表示されます。

---

2. SGD のユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「ログイン」 ボタンをクリックします。  
SGD の起動中はスプラッシュ画面が表示されます。

図 1-2 SGD のスプラッシュ画面



初期接続ダイアログボックスが表示されます。これは、SGD サーバーへの初回接続時に表示されるセキュリティーメッセージです。

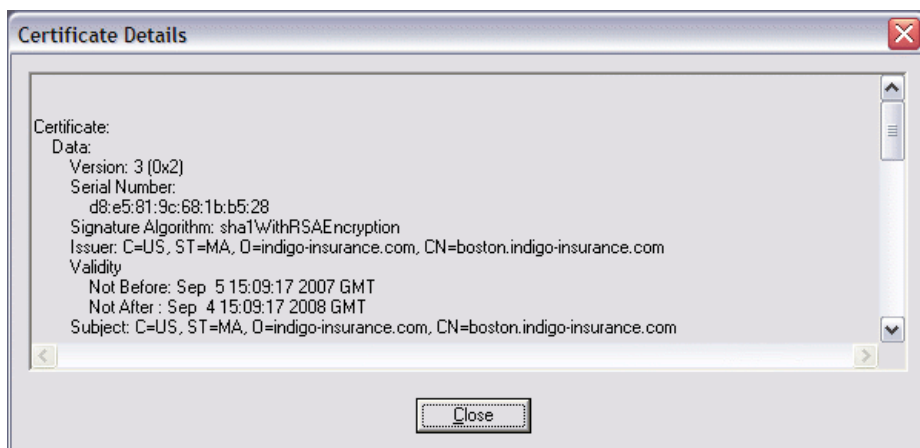
図 1-3 初期接続ダイアログボックス



4. (省略可能)「証明書の表示」ボタンをクリックします。

「証明書の詳細」ダイアログボックスが表示されます。この画面では、セキュリティー証明書の詳細を表示し、接続先のサーバーが信頼できるかどうかを確認することができます。

図 1-4 「証明書の詳細」ダイアログボックス



- a. 「Validity」および「Subject」フィールドが正しいことを確認します。
  - b. 「閉じる」をクリックします。  
初期接続ダイアログボックスが再度表示されます。
5. 証明書の詳細が正しければ、「はい」をクリックして接続に同意します。  
「はい」をクリックすると、接続に問題がある場合を除いて、このセキュリティーメッセージが再度表示されることはありません。  
SGD Client アイコンがタスクバーに表示されます。

図 1-5 SGD Client タスクバーアイコン



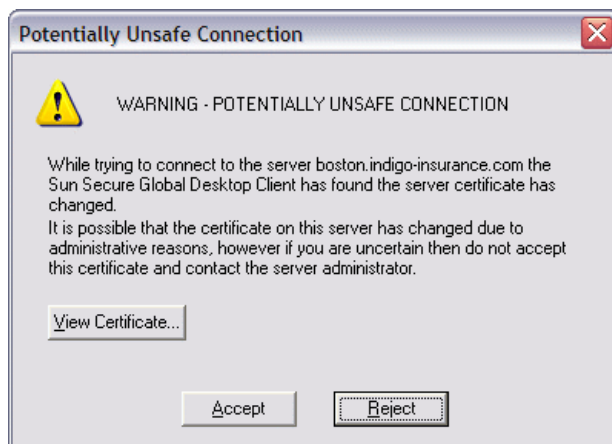
SGD の Webtop が表示されます。図 1-7 を参照してください。

デスクトップの「スタート」または「起動」メニューのリンクから SGD にログインすることもできます。「スタート」または「起動」メニューからのログインを有効にする設定方法の詳細については、[25 ページの「デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用」](#)を参照してください。

## 「安全でない可能性のある接続」メッセージ

SGD サーバーへの接続にセキュリティー上の問題が存在する場合には、「安全でない可能性のある接続」メッセージが表示されます。

図 1-6 「安全でない可能性のある接続」メッセージ



「安全でない可能性のある接続」メッセージが表示された場合には、次の手順を実行します。

## ▼ 「安全でない可能性のある接続」メッセージを処理する方法

1. 「証明書の表示」ボタンをクリックし、証明書の詳細を書き留めます。
2. 「拒否する」ボタンをクリックして接続を取り消し、SGD 管理者に連絡してください。

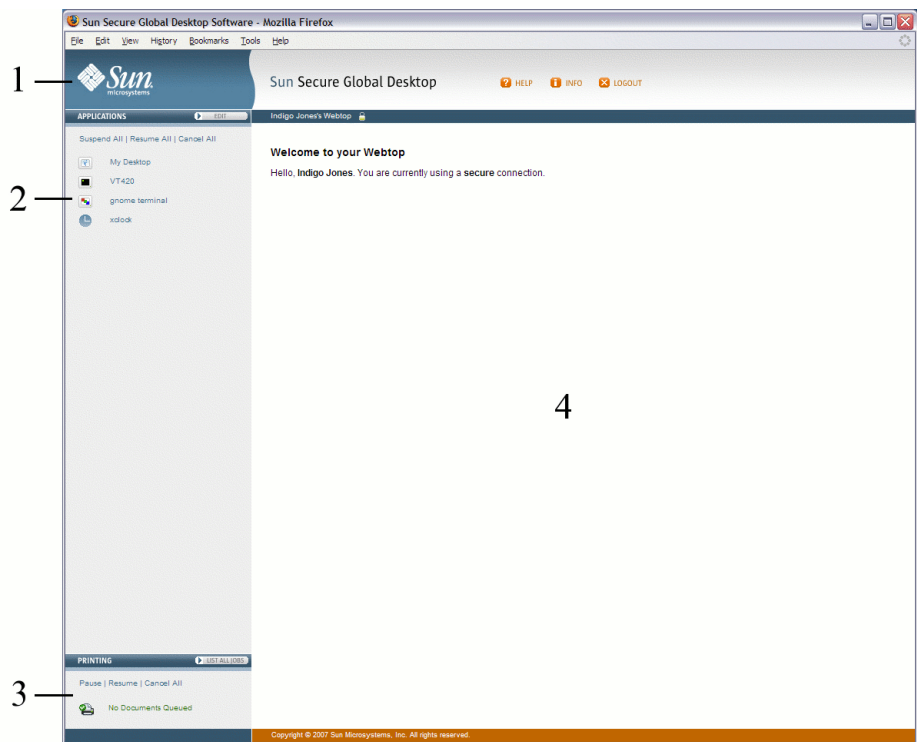
---

## SGD の Webtop

Webtop は特殊な Web ページであり、SGD 経由で実行できるアプリケーションを一覧表示し、ユーザーがそれらを実行できるようにします。ブラウザを使って Webtop を表示する場合、Webtop の SGD を使用することになります。

次の図に、Webtop のさまざまな領域を示します。

図 1-7 SGD の Webtop



#	名前	説明
1	メニューバー	ログアウト、ヘルプ、および診断ボタンが含まれています。
2	アプリケーション領域	実行可能なアプリケーションを一覧表示します。
3	印刷領域	印刷ジョブを管理できるようにします。
4	情報領域	エラーメッセージおよびシステム情報を表示します。

次の各節では、Webtop のさまざまな領域について説明します。


## メニューバー

Webtop のこの領域には、ログアウト用のボタンと、ヘルプおよび診断情報を表示するためのボタンが含まれています。

SGD のログアウトの詳細については、[29 ページの「ログアウト」](#)を参照してください。

## 診断情報の表示

Web ブラウザを使って SGD にログインした場合、サポートに役立つ情報が格納されたページを表示できます。

Webtop 上の「情報」ボタン  INFO をクリックし、続いて情報領域の「詳細な診断」リンクをクリックします。

## アプリケーション領域

Webtop のアプリケーション領域は、SGD 経由で実行可能なアプリケーションの一覧を表示するために使用されます。

アプリケーションの実行方法の詳細については、[10 ページの「アプリケーションの使用」](#)を参照してください。

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。実行可能なアプリケーションを増やしたい場合は、管理者に連絡してください。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかを設定することは可能です。これを設定するには、Webtop グループを作成します。[23 ページの「アプリケーショングループ」](#)を参照してください。

## 印刷領域

Webtop の印刷領域には、印刷ジョブの一覧表示と制御を可能にするリンクが含まれます。

印刷の詳細については、[16 ページの「印刷」](#)を参照してください。

## 情報領域

情報領域は、エラーメッセージおよびシステム情報を表示するために使用されます。表示される情報は次のとおりです。

- ユーザー名
- セキュア接続の状態
- SGD Client アイコン

### ユーザー名

SGD ユーザー名は、Webtop ツールバー (南京錠シンボルの横) に表示されます。




図 1-8 Webtop ツールバー上に表示されたユーザー名



ツールバーに「ゲストユーザー」としてログインしていることが表示された場合、ユーザー名とパスワードを入力しないでログインした (匿名ログインを行なった) か、あるいは使用中の Webtop がほかのユーザーと共有されています。

これらの詳細は、初回ログイン時に Webtop にも表示されます。

## セキュア接続の状態

セキュア接続を使用している場合は、ロックされた南京錠のアイコン  が Webtop メニューバーの下に表示されます。また、初回のログイン時に、Webtop 上のページにセキュア接続と標準接続のどちらを使用しているかが示されます。

SGD に対するセキュア接続が使用可能なのは、SGD 管理者がそれらを有効にした場合だけです。

セキュア接続を自動的に受信できない場合や、特定の状況下でセキュア接続だけを取得できる場合もあります。必要な時にセキュア接続が確立できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

## SGD Client アイコン

SGD にログインするたびに、クライアントデバイス上で SGD Client プログラムが実行されます。これは、タスクバーに表示されるクライアントアイコンで示されます。

図 1-9 SGD Client タスクバーアイコン



---

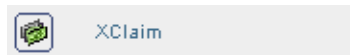
## アプリケーションの使用

アプリケーションの起動、停止、および管理を行うには、Webtop のアプリケーション領域を使用します。

# アプリケーションの実行

アプリケーションを起動するには、Webtop 上のアプリケーションのリンクをクリックします。数秒の間にアプリケーションが表示され、使用する準備が整います。

図 1-10 アプリケーション実行用の Webtop リンク



アプリケーションを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力を要求される場合があります。これは、そのアプリケーションを実行するアプリケーションサーバーに対するユーザー名とパスワードです。

別のアプリケーションを起動する前にアプリケーションを終了する必要はありません。単に別のリンクをクリックします。

SGD 管理者は、アプリケーションの表示方法を設定します。

---

注 – 異なる Windows ドメイン名を使用した Windows アプリケーションを起動することはできません。SGD 管理者に設定を依頼してください。

---

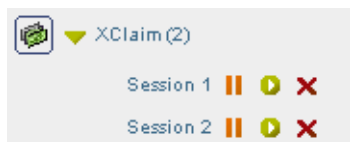
問題が発生した場合は、SGD 管理者に連絡してください。

SGD では、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューのリンクを使ってアプリケーションを実行することもできます。詳細については、[25 ページの「デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用」](#)を参照してください。

## アプリケーションのインスタンス数

あるアプリケーションが実行中である場合、Webtop 上でそのアプリケーションの名前の前に三角形が、その後ろに括弧で囲まれた数字が、それぞれ表示されます。セッションツールバーも、アプリケーション名の下に表示されます。セッションツールバーは、アプリケーションの中断、再開、または終了に使用されます。

図 1-11 アプリケーション実行中の Webtop リンク



括弧内の数字は、ユーザーが起動したアプリケーションの独立したインスタンスの個数です。SGD 管理者は、起動可能なアプリケーションのインスタンス数を設定します。実行可能なアプリケーションのインスタンス数を確認するには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動します。ポップアップウィンドウに使用可能なセッション数が表示されます。

詳細については、11 ページの「アプリケーションの中断と再開」を参照してください。

## アプリケーション起動時にエラーメッセージが表示されたらどうすればよいか。

アプリケーション起動用リンクのクリックしたときに、エラーメッセージが表示された場合、次のいずれかを試してください。

- アプリケーションサーバー用の正しいユーザー名とパスワードを入力したことを確認します。SGD からこの情報が要求されない場合は、Shift キーを押しながらリンクをクリックしてプロンプトを強制的に表示させます。
- SGD からログアウトし、Web ブラウザを終了してから再起動し、SGD に再度ログインします。アプリケーションのリンクをクリックします。
- 別のクライアントデバイスで SGD を使用します。
- SGD 管理者に連絡して、エラーメッセージに表示されるすべての情報を伝えます。

## アプリケーションの中断と再開

アプリケーションの中には、表示されていなくても実行し続けるように設定されるものもあります。それらは「再開可能」なアプリケーションです。




アプリケーションを終了しないでそのアプリケーションのウィンドウを閉じるには、アプリケーションを中断します。ウィンドウを再度表示してアプリケーションを使い始めるには、アプリケーションを再開します。

アプリケーションは表示されていなくても引き続き実行されているため、オフィスで急ぎのレポートの作成を開始し、一日の終わりに SGD からログアウトできます (アプリケーションは中断される)。帰宅したあとで SGD に再度ログインしてアプリケーションを再開し、レポートの続きを作成できます。

アプリケーションの中断と再開は、Webtop 上のセッションツールバーを使って行います。

## アプリケーションを制御するためのセッションツールバー

セッションツールバーは、アプリケーションの実行中のインスタンスごとに存在します。

-  をクリックすると、アプリケーションが中断されます
-  をクリックすると、アプリケーションが再開されます
-  をクリックすると、アプリケーションが終了します

アプリケーションセッションのセッションツールバーの表示/非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。

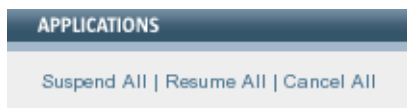
図 1-12 非表示状態のセッションツールバー



アプリケーション領域の最上部にある次の各リンクを使えば、すべてのアプリケーションセッションを一度に管理できます。

- 実行中のすべてのアプリケーションを中断するには、「すべて中断」リンクをクリックします。
- 中断されているすべてのアプリケーションを再開するには、「すべて再開」リンクをクリックします。
- 実行中のアプリケーションや中断されているアプリケーションをすべて終了するには、「すべて取消し」リンクをクリックします。

図 1-13 すべてのアプリケーションセッションを管理するためのリンク



## アプリケーションの再開機能の設定

アプリケーションが再開可能かどうか調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップウィンドウを確認します。

次の表では、アプリケーションで使用可能な再開機能設定について説明します。

再開機能の設定	説明
再開不可能	ユーザーが SGD からログアウトすると、このアプリケーションは終了します。再開可能でないアプリケーションを中断または再開することはできません。 注 - 再開可能でないアプリケーションでは、セッションツールバーに取り消しボタンしか表示されません。
ログアウト時まで再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトするまで動作し続けます。ログインしている間は、これらのアプリケーションを中断および再開できます。
常に再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトしたあとも動作し続けます。再度ログインした際に、再開ボタンをクリックすると、実行中のアプリケーションが再度表示されます。

注 - ユーザー名とパスワードを入力しないで SGD にログインした場合、再開可能なアプリケーションを再開できるのは、ログアウトするまでの期間だけです。

## Web ブラウザを閉じた場合に、作業内容が消失するかどうか

Web ブラウザを誤って (ログアウトせずに) 閉じたり、Web ブラウザがクラッシュしても、作業内容が消失することはありません。Web ブラウザを再起動して SGD にログインすれば、Webtop を表示できます。

ただし、SGD Client が予期せずに終了した場合やユーザーが SGD Client を閉じた場合、あるアプリケーションを再開できるかどうかは、SGD 管理者がそのアプリケーションをどのように設定したかと、ユーザーがどのような方法で SGD にログインしたかによって決まります。

- 「再開不可能」に設定されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられると終了します。一般にアプリケーションは、1 回に短い時間使用するだけで業務上重要な機能を果たしていない場合は、再開不能に設定されます。
- 「常に再開可能」または「ログアウト時まで再開可能」に設定されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられたあとも、ある一定期間実行し続けます。単にブラウザを再起動してから SGD に再びログインし、動作中のアプリケーションを再開します。
- SGD に匿名でログインした場合 (ユーザー名とパスワードを入力しなかった場合)、あるいは共有 Webtop (複数のユーザーが同じユーザー名とパスワードを使ってログインする Webtop。9 ページの「ユーザー名」を参照) を使用している場合は、SGD Client が終了するか閉じられるとアプリケーションが終了します。なぜ

なら、どちらの場合もユーザーが一意のユーザー名とパスワードを使用しないために、SGD に再度ログインしたユーザーが以前と同じユーザーかどうかを SGD が判断できないからです。

## アプリケーションの表示方法の変更

SGD 管理者が、アプリケーションのデスクトップ上での表示方法を定義します。たとえば、アプリケーションがフルスクリーン表示されるかそれともデスクトップウィンドウ内に表示されるか、などです。

デスクトップウィンドウ内に表示されるグラフィカルアプリケーションは、ウィンドウのサイズに合わせて拡大縮小することができます。ウィンドウのサイズを変更すると、SGD によって新しいウィンドウのサイズに合わせてアプリケーションが再度拡大縮小され、スクロールバーは表示されません。

Scroll Lock キーを押すことで、アプリケーションの拡大縮小の有効化/無効化を切り替えることができます。

アプリケーションがスケーラブルウィンドウに表示されているかどうか調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップメッセージまたはウィンドウ下部のステータスバーを確認します。

## アプリケーション間での情報のコピー

Windows アプリケーションおよび X アプリケーションでは、コピー元のアプリケーションで通常の方法でコピーしてから、コピー先のアプリケーションで通常の方法でペーストします。アプリケーションによっては、情報のコピー&ペーストが許可されない場合があります。この動作は、SGD 管理者により設定されます。アプリケーション間のコピー&ペーストが許可されない場合、コピーした情報の代わりに次のメッセージがペーストされます。

```
Sun Secure Global Desktop Software: Copied data not available  
to this application
```

文字型アプリケーションの場合、マウスの右ボタンでクリックしてから、「コピー」または「ペースト」を適切にクリックします。テキストのカラムを選択するには、Shift キーを押しながらテキストを選択します。

タイプの異なるアプリケーション間で情報をコピーできます。たとえば、アプリケーションサーバー上で実行している xterm から、クライアントデバイス上で実行しているテキストエディタにコピーできます。

グラフィックスのコピー&ペーストは、Microsoft Windows 2000 および Windows 2003 アプリケーションでのみ可能です。

# 異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行

あるアプリケーションを起動する際にユーザー名とパスワードの入力を SGD に要求させるには、Shift キーを押しながら、Webtop 上のそのアプリケーションのリンクをクリックします。

ユーザー名とパスワードの入力をこのような方法で SGD に要求させることは、アプリケーションサーバー用にすでに保存されているユーザー名とパスワードを SGD が使用しないことを意味します。別のユーザーとしてアプリケーションを起動したい場合に役立ちます。

「このパスワードを保存」チェックボックスが選択された場合、新しいユーザー名とパスワードが保存され、このアプリケーションサーバー上にそれまで保存されていたユーザー名とパスワードは置き換えられます。このユーザー名とパスワードは、このアプリケーションサーバー上で起動する他のすべてのアプリケーションに使用されません。

次の場合には、Shift キーを押しても効果はありません。

- SGD に匿名ユーザーまたは共有ユーザーでログインしている場合。
- アプリケーションを起動するためのリンクが、デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー内に存在している場合。Shift キープロンプトが正しく機能するのは、Webtop 上のリンクに対してだけです。

## 1 ボタンの Apple Macintosh マウスの使用

多くの Microsoft Windows アプリケーションおよび X アプリケーションは、マウスの中ボタンやマウスの右ボタンを使用します。このようなアプリケーションを 1 ボタンの Apple Macintosh マウスで使用するには、キーボード上の次のいずれかのキーを押しながらボタンをクリックします。

- マウスの中ボタンをクリックする代わりに、Alt キーを押しながらマウスのボタンをクリックします
- マウスの右ボタンをクリックする代わりに、Command キーを押しながらマウスのボタンをクリックします

---

## 印刷

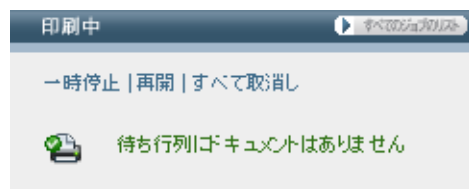
SGD では、アプリケーションからクライアントデバイスのプリンタに印刷できません。

Microsoft Windows 2000、Windows 2003、または UNIX プラットフォームのアプリケーションサーバー上で動作するアプリケーションから印刷を実行する場合、印刷するプリンタを選択できます。それ以外のタイプのアプリケーションサーバーの場合は、デフォルトプリンタにのみ印刷できます。

## 印刷ジョブの管理

印刷ジョブの管理には、Webtop の「印刷」領域を使用します。印刷領域には、印刷キュー内の現在のジョブ数、および印刷ジョブの管理用コントロールが表示されます。

図 1-14 SGD Webtop の印刷領域



ドキュメントが印刷中である場合、印刷キュー内の印刷ジョブの個数が Webtop 上に表示されます。

印刷を一時的に停止するには、「一時停止」リンクをクリックします。印刷が一時停止されると、プリンタアイコンの表示が変わります。

図 1-15 印刷一時停止アイコン





印刷を一時停止した場合、保留中の印刷ジョブはすべて、ユーザーが印刷を取り消すか再開するまで印刷キュー内に保持されます。

一時停止した印刷を再開するには、「再開」リンクをクリックします。

印刷ジョブをすべて削除するには、「すべて取消し」リンクをクリックします。

印刷ジョブを個別に管理するには、「すべてのジョブのリスト」ボタンをクリックします。Webtop に、キュー内のすべての印刷ジョブの一覧とそれらの各ジョブの情報が表示されます。たとえば、コピー枚数や使用するプリンタなどです。

印刷が一時停止された状態で  をクリックすると、その印刷ジョブだけが印刷されます。

特定の印刷ジョブを取り消すには、 をクリックします。



# UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷

SGD では、UNIX プラットフォームアプリケーションから、クライアントデバイスに接続されたプリンタに印刷することができます。

## UNIX プラットフォームアプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームクライアントデバイスへの印刷

アプリケーションサーバー上の端末ウィンドウから、クライアントデバイス上のデフォルトプリンタにファイルを印刷するには、次のコマンドを入力します。

```
$ lp file
```

あるいは、SGD 管理者が設定した任意のクライアントプリンタを指定することもできます。

たとえば、salesprinter という名前のクライアントプリンタが SGD 管理者によって設定されている場合、次のコマンドを使用できます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

## UNIX プラットフォームアプリケーションから Windows クラ イアントデバイスへの印刷

次のコマンドを実行すると、*file* が Windows クラ イアントデバイス上のデフォルトプリンタに印刷されます。

```
$ lp file
```

クライアントデバイス上のあるポートに印刷することもできます。次に例を示します。

```
$ lp -d LPT1: file
```

また、クライアントデバイスからアクセス可能なネットワークプリンタの UNC (Universal Naming Convention) 名を指定して印刷することもできます。UNC 名を使用するには、プリンタ名を引用符で囲み、シェルに応じた方法でバックスラッシュをエスケープする必要があります。次に例を示します。

```
$ lp -d '\\\\PRTSERVER\HPLJ5 file
```

UNC 名の問題を回避するには、次のような「フレンドリ」な名前を使って印刷します。

```
$ lp -d label-printer file
```

この場合、SGD 管理者によってこのフレンドリな名前が設定されている必要があります。

## Windows アプリケーションからの印刷

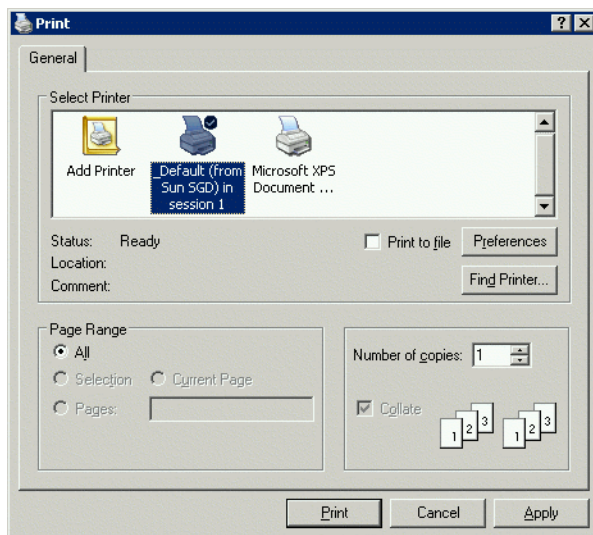
SGD では、Windows アプリケーションから、クライアントデバイスに接続されたプリンタに印刷することができます。

### Windows アプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームクライアントデバイスへの印刷

Microsoft Windows 2000 Server または Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションサーバー上のアプリケーションにアクセスすると、SGD 管理者によって設定されたクライアントプリンタが表示されます。

アプリケーションサーバーの「印刷」ダイアログボックスで、クライアント上のプリンタのプリンタ名には「Sun SGD」が含まれます。

図 1-16 SGD のあるクライアントプリンタが選択された状態の、Windows 2003 「印刷」ダイアログボックス



ユーザー独自のクライアントプリンタを設定する方法の詳細については、[39 ページ](#)の「[クライアントプリンタの設定](#)」を参照してください。

## Windows アプリケーションから Windows クライアントデバイスへの印刷

Microsoft Windows 2000 Server または Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションサーバー上のアプリケーションにアクセスすると、クライアントに接続されたプリンタが一部または全部表示されるか、あるいはまったく表示されません。さらに、アプリケーションサーバーに直接接続されたプリンタが表示されます。ユーザーが表示可能なクライアントプリンタは、SGD 管理者が設定します。

アプリケーションサーバーの「印刷」ダイアログボックスで、クライアント上のプリンタのプリンタ名には「Sun SGD」が含まれます (図 1-16 を参照)。

## PDF 印刷

Windows 2000、Windows 2003、UNIX プラットフォーム、または Linux プラットフォームのアプリケーションサーバーでは、PDF ファイルに印刷できます。その場合、Adobe PDF 形式を使用することでプリンタドライバの問題の多くが避けられます。

SGD には、「Universal PDF Printer」と「Universal PDF Viewer」の 2 種類の PDF プリンタが存在します。

Microsoft Windows クライアントデバイスでは、「Universal PDF Printer」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。この PDF ファイルはデフォルトプリンタで印刷されます。「Universal PDF Viewer」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスでは、「Universal PDF Printer」プリンタと「Universal PDF Viewer」プリンタに違いはありません。印刷ジョブは常に PDF ビューア内の PDF ファイルとして表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

## PDF 印刷の使用

Windows アプリケーションから通常の方法で印刷を実行し、アプリケーションの「印刷」ダイアログで「Universal PDF Printer」または「Universal PDF Viewer」を選択します。

UNIX または Linux プラットフォームのアプリケーションサーバー上で実行されているアプリケーションから印刷するには、印刷コマンドの一部として PDF プリンタを指定しながら通常の方法で印刷します。次に例を示します。

```
$ lp -d "Universal PDF Printer" file
```

```
$ lpr -P "Universal PDF Viewer" file
```

*file* は PostScript ファイルである必要があるため、アプリケーションが PostScript を出力できる必要があります。

Windows クライアントデバイスでは、PDF ファイルは Adobe Reader に表示されます。ユーザーが選択するプリンタに応じて、次のいずれかが適用されます。

- 「Universal PDF Printer」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは自動的にデフォルトプリンタで印刷されます。Adobe Reader は最小化された状態で実行され、印刷ジョブが完了しても終了しません。
- 「Universal PDF Viewer」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは Adobe Reader のウィンドウに表示されます。ユーザーは、このファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスでは、PDF ファイルはデフォルトの PDF ビューアまたはクライアントプロファイルに設定されている PDF ビューアに表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するか

または保存するかを決定できます。印刷ジョブは常に PDF ビューアに表示されるため、「Universal PDF Printer」プリンタと「Universal PDF Viewer」プリンタに違いはありません。

## 印刷のトラブルシューティング

アプリケーションから印刷しても出力されない場合には、次の点を確認してください。

考えられる原因	詳細情報
印刷を一時停止しましたか。	Webtop 上に印刷が一時停止されていることを示す情報がないことを確認します。16 ページの「印刷一時停止アイコン」を参照してください。
プリンタは正しく設定されていますか。	プリンタが正しく設定されているか確認します。それにはたとえば、Web ブラウザから Web ページをプリンタに印刷します。
適切なプリンタに対して印刷を実行しましたか。	Windows 2000、Windows 2003、または UNIX プラットフォームのアプリケーションサーバーから印刷する場合は、印刷先のプリンタを選択できます。プリンタを選択しない場合、出力はデフォルトのプリンタに送信されます。 その他のアプリケーションサーバーの場合は、常にデフォルトプリンタで印刷が実行されます。 どのプリンタがデフォルトプリンタであるかを確認するには、Webtop 上のプリンタアイコンをポイントします。ポップアップが表示され、そこにデフォルトプリンタの名前が表示されます。 デフォルトプリンタを変更するには、SGD からいったんログアウトしてデフォルトプリンタを変更したあと、SGD に再度ログインする必要があります。
「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されますか。	Webtop に「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されていないこと、およびプリンタアイコンに赤い×印が付いていないことを確認します。これは、SGD がクライアントデバイス用またはプリンタ用の印刷をサポートしていないことを示しています。 SGD 管理者は、印刷を可能にするためのサポートを提供できる場合があります。

上記のいずれによっても印刷の問題を解決できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

---

## 設定の変更

次のユーザー固有の SGD 設定を変更するには、アプリケーション領域の「編集」ボタンをクリックします。

- クライアント設定
- アプリケーショングループ

### クライアント設定

SGD Client が起動するときには、プロファイルが使用されます。プロファイルとは、SGD Client を制御する一連の設定のことです。プロファイルの設定により、次の内容が定義されます。

- **SGD Client** から **SGD** サーバーへの接続方法。たとえば、接続先の URL や使用するプロキシサーバーなど。
- **SGD Client** の動作モード。たとえば、Webtop を表示するか (Webtop モード)、それとも実行可能なアプリケーションの一覧をデスクトップの「スタート」または「起動」メニュー内に表示するか (統合モード)。
- **SGD Client** の動作。たとえば、SGD サーバーとの接続が失われた場合の動作など。

接続する SGD サーバーごとに、1 つのプロファイル (1 つの設定グループ) を割り当てることができます。

利用可能なクライアント設定については、[付録 C](#) を参照してください。

### プロファイルの編集

プロファイルを編集するには、SGD 管理者が SGD をそのように設定している必要があります。

プロファイルの編集は、Webtop 上でのみ行えます。Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックして、「クライアントの設定」タブをクリックします。

編集できるプロファイルは、自分のプロファイルだけです。また、現在接続している SGD サーバーのプロファイルだけを編集できます。

プロファイルを最初に編集するときには、管理者が設定した内容が表示されます。

プロファイルをシステムのデフォルト設定に戻すには、「リセット」ボタンをクリックします。

---

注 – プロファイルに加えた変更を有効にするには、SGD からログアウトしてから再度ログインする必要があります。

---

## アプリケーショングループ

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかは設定可能です。これを設定するには、グループを作成します。

グループは、類似のアプリケーションをグループにまとめたり、使用頻度があまり多くないアプリケーションを隠したりする場合に役立ちます。グループは、工夫次第でさまざまな用途に利用できます。

### ▼ グループを作成する方法

1. Webtop の「編集」ボタンをクリックします。

2. 「グループの編集」タブをクリックします。

3. 「新規グループの追加」ボタンをクリックします。

グループの名前を入力します。

「コンテンツの選択」で、グループに含めるアプリケーションおよびドキュメントのチェックボックスを選択します。

4. グループの表示オプションを設定します。

アプリケーションおよびグループを Webtop から隠すには、「ログイン時にこのグループを Webtop に表示する」の横のチェックボックスの選択を解除します。

初回ログイン時に、グループの内容を隠してグループ名だけが表示されるようにするには、「ログイン時にこのグループのコンテンツを表示する」の横のチェックボックスの選択を解除します。

図 1-17 「グループの編集」タブによる新しいグループの作成

**Name**

Enter name:

**Choose your content**

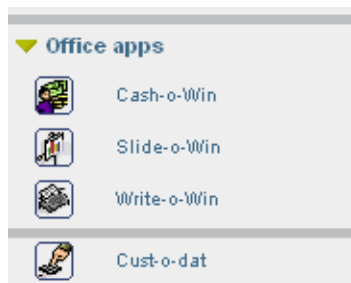
☒ Cash-o-Win ☐ Cust-o-dat ☐ Pers-o-dat  
☒ Slide-o-Win ☒ Write-o-Win ☐ XClaim  
☐ XFinance

**Set your display options**

☒ I want to see this group on my webtop when I log in  
☒ I want to see the contents of this group when I log in

5. 「グループの保存」ボタンをクリックします。
6. 「アップデート」ボタンをクリックします。  
作成した Webtop グループの名前は、Webtop 上に表示されます。

図 1-18 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが表示された状態

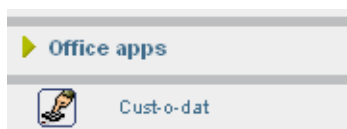


どのアプリケーションがグループに含まれるかを示す区切り線も表示されます。

7. グループ内のアプリケーションの表示/非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。



図 1-19 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが隠された状態



必要な数だけグループを追加できます。グループの変更や削除は、いつでも実行できます。変更を加えたあとで、「アップデート」をクリックする必要があります。

## デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用

デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用できます。これは**統合モード**と呼ばれます。統合モードで SGD を使用する場合、アプリケーション起動用のリンクは、Webtop 上ではなくデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに表示されます。つまり、クライアントデバイスにインストールしたアプリケーションと同じように、SGD からアプリケーションを実行することができます。

### ▼ デスクトップの「スタート」または「起動」メニューに SGD を追加する方法

SGD をデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに追加する場合は、通常は、最初にログインして Webtop を表示してから、プロフィールを編集する必要があります。

1. Web ブラウザを起動し、SGD のログイン URL にアクセスします。  
SGD のログイン URL は `http://server.example.com/sgd` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。
2. ログインして Webtop を表示します。
3. クライアントプロフィールを次のように編集します。
  - a. Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックして、「クライアントの設定」タブをクリックします。
  - b. 「スタートメニューへのアプリケーションの追加」チェックボックスにチェックマークを付けます。

- c. デSKTOPへのログイン時に **SGD Client** を起動するには、「システムログイン時に接続」チェックボックスを選択します。
  - d. プロキシサーバーの設定を行います。  
使用するプロキシサーバー設定については、SGD 管理者に確認してください。
  - e. 「保存」をクリックします。
4. **SGD** からログアウトします。
- 使用するプロファイルによっては、最初にログインしたあとに Web ブラウザを使って **SGD Client** にアクセスする必要がない場合もあります。

## 「スタート」または「起動」メニューの操作

ここでは、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューを使って、次の各タスクを実行する方法について説明します。

- ログイン
- アプリケーションの実行
- 印刷
- Webtop の表示
- アプリケーショングループの使用
- ログアウト

### ログイン

デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー上の「ログイン」リンクをクリックして、SGD にログインします。

図 1-20 デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからのログイン



---

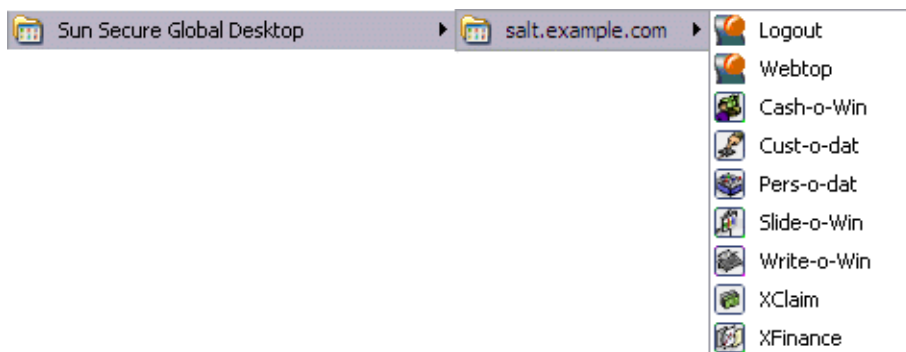
注 – 複数の SGD サーバーにログインする場合は、各サーバーの「ログイン」リンクが「スタート」または「起動」メニュー内に表示されます。

---

SGD にログインすると、「スタート」または「起動」メニュー内の、SGD から実行可能なアプリケーションのリンクが更新されます。

SGD を統合モードで使用するには、常に「スタート」または「起動」メニューを使用してログインします。Web ブラウザを起動してログインしても、「スタート」または「起動」メニューにアプリケーションは表示されません。

図 1-21 デスクトップの「スタート」または「起動」メニュー内の Webtop コンテンツリンク



## Webtop の表示

プロファイルの編集、中断しているアプリケーションの再開、印刷の管理などの目的で、Webtop を表示する必要がある場合は、「スタート」または「起動」メニューの「Webtop」リンクをクリックします。ユーザーのデフォルト Web ブラウザに Webtop が表示されます。

## アプリケーションの実行

アプリケーションを起動するには、「スタート」または「起動」メニューに表示されたアプリケーションのリンクをクリックします。アプリケーションの別のインスタンスを起動する場合は、リンクを再度クリックします。

Webtop とは異なり、アプリケーションを個別に中断および再開することはできません。実行中のアプリケーションは、SGD からログアウトする際に中断または終了されます (再開機能の設定内容による。11 ページの「アプリケーションの中断と再開」を参照)。再度ログインすると、中断していたアプリケーションが自動的に再開されます。

SGD によるアプリケーションの実行方法の詳細については、10 ページの「アプリケーションの使用」を参照してください。

## 印刷

「スタート」または「起動」メニューから印刷ジョブを個別に管理することはできません。印刷ジョブは選択したプリンタに直接送信されます。

SGD による印刷方法の詳細については、[16 ページの「印刷」](#)を参照してください。

## アプリケーショングループの使用

Webtop コンテンツをグループで表示するように設定した場合は、「スタート」または「起動」メニューでもそれらのグループが使用されます。Webtop コンテンツを表示しないように設定されているグループは、「スタート」または「起動」メニューにコンテンツは表示されません。

---

## ログアウト

SGD Webtop を使用しているか、それともデスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用しているかによって、ログアウトの手順が異なります。

### SGD Webtop からのログアウト

Web ブラウザを閉じる前に必ず SGD からログアウトします。

Webtop 上の「ログアウト」ボタンをクリックし、確認を要求されたら「了解」をクリックします。

図 1-22 Webtop 上の「ログアウト」ボタン



### 「スタート」または「起動」メニューによるログアウト

統合モードの SGD からログアウトするには、「スタート」または「起動」メニューの「ログアウト」リンクをクリックします。





# SGD Client の手動インストール

---

Java テクノロジーが有効になっていない Web ブラウザで SGD を使用するには、SGD Client を手動でダウンロードして、コンピュータにインストールする必要があります。

---

## SGD Client のインストール

SGD Client は通常、Java テクノロジーを有効にした Web ブラウザを使ってユーザーが SGD サーバーに接続すると、自動的にインストールされます。SGD Client を手動でインストールする場合にだけ、ここで説明する手順に従ってください。

SGD Client のインストールには、スーパーユーザー (root) や管理者の特権は必要ありません。

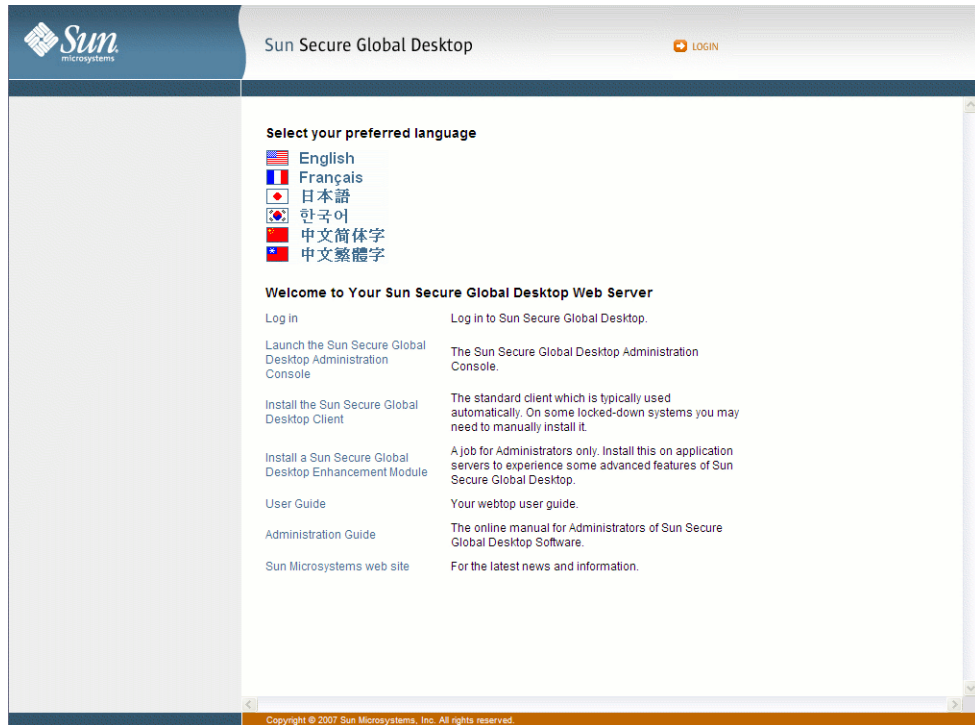
Microsoft Windows プラットフォームの場合、SGD Client はデフォルトでは C:\Program Files\Sun\Secure Global Desktop Client ディレクトリにインストールされますが、ソフトウェアのインストール時に別のインストールディレクトリを選択できます。SGD Client のショートカットが Windows 「スタート」メニューに追加されます。

UNIX プラットフォームと Linux プラットフォームの場合、SGD Client はデフォルトでは \$HOME/bin ディレクトリにインストールされますが、ソフトウェアのインストール時に別のインストールディレクトリを選択できます。

## ▼ Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

1. Web ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。  
たとえば、`http://server.example.com` にアクセスします。  
SGD Web サーバーの開始画面が表示されます。

図 A-1 SGD の開始画面



2. (省略可能) 使用する言語を選択します。  
開始画面の上部にある旗のいずれかをクリックします。  
開始画面が選択した言語で表示されます。
3. 「Sun Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。  
「Sun Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。

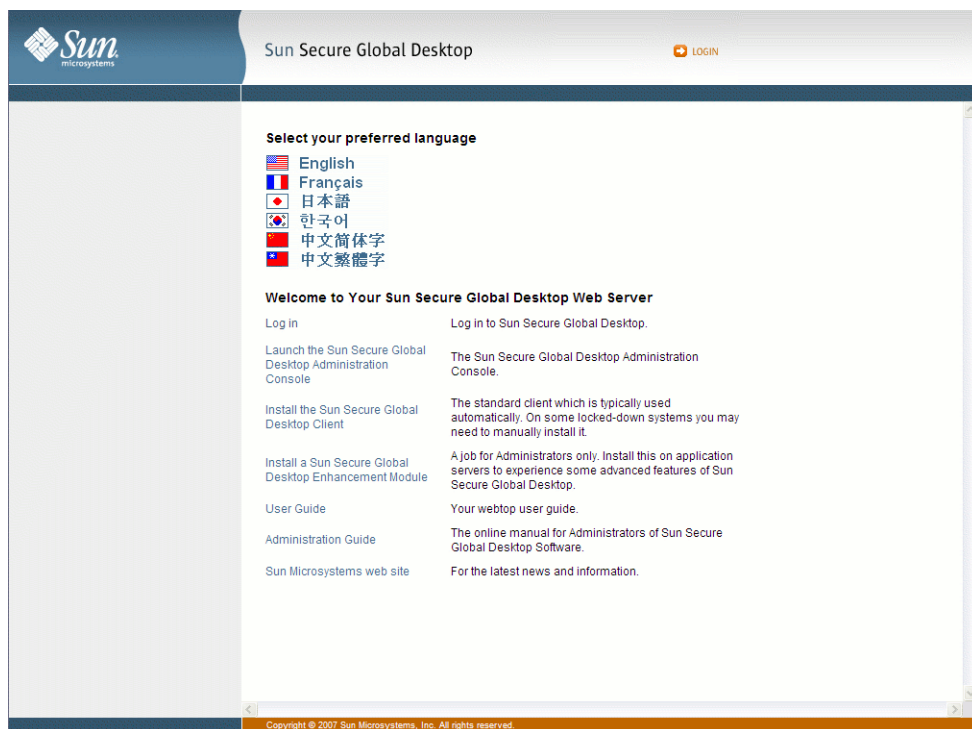


4. **SGD Client** インストールプログラムをダウンロードします。  
「Secure Global Desktop Client for Microsoft Windows のダウンロード」をクリックします。  
PC 上の一時ディレクトリにインストールプログラムを保存します。  
SGD Client インストールプログラムは `sgdcwin-lang.exe` です。
5. 一時ディレクトリに移動し、**SGD Client** をインストールします。  
`sgdcwin-lang.exe` をダブルクリックし、画面に表示される指示に従います。

## ▼ Solaris OS プラットフォームおよび Linux プラットフォームに **SGD Client** を手動でインストールする方法

1. Web ブラウザで、**SGD Web** サーバーにアクセスします。  
たとえば、`http://server.example.com` にアクセスします。  
SGD Web サーバーの開始画面が表示されます。

図 A-2 SGD の開始画面



2. (省略可能) 使用する言語を選択します。  
開始画面の上部にある旗のいずれかをクリックします。  
開始画面が選択した言語で表示されます。
3. 「Sun Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。  
「Sun Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。
4. SGD Client の tar ファイルをダウンロードします。  
「platform 版の Secure Global Desktop Client」をクリックします。  
ホスト上の一時ディレクトリに tar ファイルを保存します。  
tar ファイルの名前は、次のようにプラットフォームを示しています。
  - sgdcis3so.tar (x86 プラットフォーム版 Solaris OS の場合)
  - sgdcspso.tar (SPARC テクノロジプラットフォーム版 Solaris OS の場合)
  - sgdcis3li.tar (Linux プラットフォームの場合)

5. 一時ディレクトリに移動し、tar ファイルを展開します。

```
$ cd /tmpdir
$ tar xvf tarfile
```

6. SGD Client をインストールします。

```
$ sh sgdc/install
```

画面に表示される指示に従ってください。

---

## SGD Client を使用したログイン

- UNIX プラットフォームと Linux プラットフォームの場合は、SGD Client を ttatcc コマンドで起動します。
- Microsoft Windows プラットフォームの場合は、SGD Client をインストールの一部として起動するか、「スタート」「プログラム」「Sun Secure Global Desktop」「ログイン」の順にクリックして起動します。

### ▼ SGD Client を設定する方法

SGD Client の初回起動時に、次の情報を入力するよう求められます。

- 接続先の SGD サーバーの URL。通常は、`http://server.example.com/sgd` を指定します。
- 使用するプロキシ設定。デフォルトの Web ブラウザ (Java テクノロジーが必要) から設定を引き継ぐことも、自分で設定を入力することもできます。

1. SGD Client を初めて起動します。

- UNIX および Linux プラットフォームの場合:

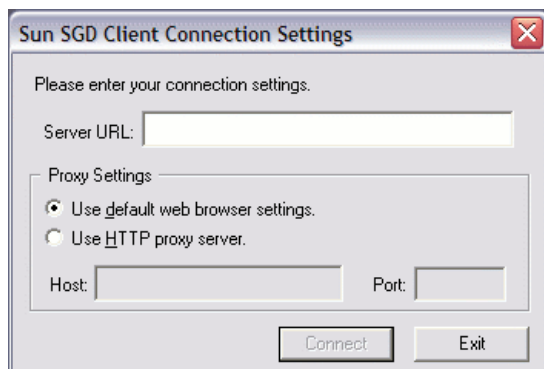
```
$ cd $HOME/bin
$ sh ttatcc
```

- Windows プラットフォームの場合:

「スタート」「プログラム」「Sun Secure Global Desktop」「ログイン」をクリックします。

「クライアント接続設定」ダイアログボックスが表示されます。

図 A-3 「クライアント接続設定」ダイアログボックス



2. SGD サーバーのサーバー URL を入力します。
3. 「プロキシ設定」のオプションを選択します。  
「HTTP プロキシサーバーを使用する」オプションを選択した場合は、提供されたフィールドにプロキシサーバーのホスト名とポートを入力します。
4. 「接続」ボタンをクリックして SGD サーバーに接続します。  
デフォルトの Web ブラウザが読み込まれ、SGD ログインダイアログが表示されます。
5. SGD にログインします。  
SGD ログインダイアログで、SGD のユーザー名とパスワードを入力します。  
「ログイン」ボタンをクリックして SGD にログインします。
6. SGD からログアウトします。  
SGD Webtop メニューバー上の「ログアウト」ボタンをクリックします。  
ユーザーが入力したクライアント接続設定は、SGD Client によって、この SGD サーバーへの後続のすべての接続で使用されます。

## 付録 B

# 詳細設定

---

この付録には、SGD の上級ユーザー向けの設定情報が含まれます。

---

## 詳細設定

ここでは、次の詳細設定トピックについて説明します。

- クライアント設定
- 印刷
- コンピュータ上のドライブへのアクセス

## クライアント設定

SGD Client の次の設定の一部を変更できます。

- ログイン URL
- 言語
- プロキシ設定
- PDF ビューア

「クライアントの設定」タブを表示するには、Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックします。ユーザーが編集できるのは、現在接続されている SGD サーバーに対するクライアント設定だけです。

---

注 – ユーザー独自のクライアント設定の変更をユーザーに許可するかどうかは、SGD 管理者が決定します。

---

## ログイン URL の変更

SGD サーバー上のログインページの場所を指定するには、「ログイン URL」設定を使用します。

このクライアント設定は、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD にログインする場合に適用されます。

ログイン URL は通常、`http://server.example.com/sgd/index.jsp` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

## 言語の変更

ログインページや画面上のメッセージで使用される言語を指定するには、「言語の選択」設定を使用します。

このクライアント設定は、デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を使用する場合に適用されます。

## プロキシ設定の変更

SGD Client によって使用されるプロキシサーバーを指定するには、「クライアントの設定」タブの「プロキシ」セクションの設定を使用します。

デフォルト設定では、Web ブラウザと同じプロキシサーバー設定を使用するようになっています。しかし、HTTP プロキシサーバーの手動設定を入力することもできます。

## 代替 PDF ビューアの指定

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイス上で PDF ファイルを印刷する場合、その PDF ファイルは通常、そのクライアントのデフォルトの PDF ビューアを使って表示されます。

これを上書きするには、「代替 PDF ビューア」設定に別の PDF ビューアを指定します。代替 PDF ビューアのアプリケーションコマンドを入力します。アプリケーションが PATH 上に存在しない場合は、アプリケーションのフルパス名を入力します。

## 印刷

UNIX、Linux、または Mac OS X クライアントデバイスを使用している場合には、SGD 管理者による設定を上書きし、クライアントデバイス上のプリンタを設定することができます。

## クライアントプリンタの設定

SGD 管理者は通常、ユーザーが使用できるクライアントプリンタの設定を行います。しかしながら、UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスから印刷を行う場合には、そうした設定を上書きし、ユーザー独自のクライアントプリンタを設定することができます。そうするには、ホームディレクトリ内のクライアントプリンタ設定ファイル `$HOME/.tarantella/printerinfo.txt` 内で、それらを定義します。このファイルはデフォルトではインストールされません。このファイルを作成するか、あるいはインストールおよび編集可能なテンプレートファイルを SGD 管理者から入手する必要があります。

プリンタ設定ファイルの形式は次のとおりです。

```
UNIX
"printer_name" = "windows_driver" printer_type
"printer_name" = "windows_driver" printer_type
...
```

`printer_name` は、クライアントデバイス上の `lp` または `lpr` システムに認識されているプリンタの名前です。

`windows_driver` は、Microsoft Windows 2000 または Microsoft Windows 2003 アプリケーションサーバーから印刷を行う場合に使用するプリンタドライバの名前です。

`printer_type` は、印刷ジョブで使用されるべき形式です。有効な値は PostScript、PCL、Text です。

クライアントプリンタ設定ファイルの例は、次のとおりです。

```
UNIX
"drafts" = "HP DeskJet 970Cxi" PCL
"salesprinter" = "HP LaserJet 5/5M" PostScript
```

ここでは、2 つのクライアントプリンタ `drafts` と `salesprinter` が定義されています。この場合、次のコマンドを使えば、UNIX プラットフォームアプリケーションから `salesprinter` に印刷することができます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

## コンピュータ上のドライブへのアクセス

SGD 管理者は、SGD 経由で実行中のアプリケーションからクライアントデバイス上のドライブにアクセスできるようにするかどうかを設定します。

UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスを使用している場合、デフォルトでホームディレクトリが「My Home」という名前のドライブにマップされます。ただし、ユーザーはアプリケーションで使用するドライブを

設定することができます。そうするには、クライアント設定ファイル `$HOME/.tarantella/native-cdm-config` を編集します。このファイルは、SGD Client のインストール時に自動的に作成されます。このファイルには、マッピングされたドライブの作成方法に関するユーザー向けの詳細な手順が含まれています。

この設定ファイルには、`<path> <type> <label>` という形式のエントリが含まれます。ここで、各要素は次のとおりです。

- `<path>` は、クライアントファイルシステムの絶対パス名です
- `<type>` は `unknown`、`fixed`、`floppy`、`cdrom`、`remote` のいずれかです。
- `<label>` は、アプリケーションセッションで使用される名前です

ドライブごとに改行し、フィールド間は空白かタブで区切ります。空白やタブを含む `<path>` フィールドまたは `<label>` フィールドは、引用符で囲みます。

`<path>` フィールドと `<label>` フィールドでは、環境変数を使用できます。それらはドル記号 (\$) で区切ります。リテラルの \$ を使用するには、それをもう 1 つの \$ でエスケープします。

設定ファイルの例を、次に示します。

```
[CDM]
$HOME$ fixed "My Home"
/tmp/$USER$ fixed Temp
"/mnt/win/My Documents" fixed "My Local Documents"
[/CDM]
```



# クライアントプロファイルの設定

この付録では、クライアントプロファイルで設定可能な項目について説明します。

## クライアントプロファイル設定の説明

SGD Client が起動するときには、プロファイルが使用されます。プロファイルとは、SGD Client を制御する一連の設定のことです。

次の表で、クライアントプロファイルの設定とその機能について説明します。

設定に関して不明な点がある場合は、SGD 管理者に問い合わせてください。

設定内容	説明
ログイン URL	<p>プロファイルが使用する SGD の URL。これは通常、<code>http://server.example.com/sgd</code> です。ここで、<code>server.example.com</code> は SGD サーバーの名前です。</p> <p>Webtop モードの場合は、デフォルトの Web ブラウザにこの URL が自動的にロードされ、Webtop にログインしてアクセスできる状態になります。</p> <p>統合モードでは、URL がデフォルトの Web ブラウザにロードされるのは、SGD にログインする必要がある場合、または SGD Client がプロキシサーバーの設定を取得する必要がある場合だけです。</p> <p>デフォルトのログイン URL は、<code>http://server.example.com:80/sgd/index.jsp</code> です。</p>

設定内容	説明
システムログイン時に接続	<p>有効な場合、クライアントデバイスにログインするたびに、SGD Client がこのプロファイルを使用して自動的に起動します。</p> <p>これを有効にすると、アプリケーションのショートカットまたはシンボリックリンクが、SGD Client によりデスクトップシステムのスタートアップフォルダ内に作成されます。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
「スタート」メニューへのアプリケーションの追加	<p>SGD の使用方法を制御します。</p> <p>有効な場合、実行可能なアプリケーションが、クライアントデバイスのデスクトップの「スタート」または「起動」メニューに表示されます (統合モード)。</p> <p>無効な場合、実行可能なアプリケーションが Web ブラウザ上の Webtop に表示されます (Webtop モード)。</p> <p>統合モードでは、アプリケーションを個別に中断および再開したり、印刷ジョブを個別に一時停止および再開したりすることはできません。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
自動クライアントログイン	<p>有効な場合、SGD Client が起動するとすぐに SGD に自動的にログインしようとします。自動ログインが使用されるかどうかは、管理者に問い合わせてください。</p> <p>このオプションを有効にできるのは、「「スタート」メニューへのアプリケーションの追加」設定が有効な場合だけです。</p> <p>デフォルトでは、この機能は無効になっています。</p>
代替 PDF ビューア	<p>PDF 印刷で使用する代替 PDF ビューア用のアプリケーションコマンド。</p> <p>アプリケーションが PATH に存在しない場合は、アプリケーションのフルパスを入力します。</p> <p>この設定が適用されるのは、UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスだけです。</p>
ログ	<p>SGD Client ログファイルに出力される情報量を制御します。</p> <p>出力は、SGD Client と同じディレクトリ内にテキストファイルで保存されます。</p> <p>デフォルトは、「エラーのみ」です。</p>
言語の選択	<p>SGD Client がコマンド行から起動される際に使用すべきデフォルト言語。たとえば、SGD Client が統合モードの場合など。</p> <p>選択した言語は、SGD Client、ログインダイアログ、および Webtop で表示されるメッセージで使用されます。</p> <p>デフォルト値は en です。</p>

設定内容	説明
ローカル X サーバーの確認	<p>有効な場合、SGD Client がクライアントデバイス上で動作している X サーバーがあるかどうかを確認します。</p> <p>X アプリケーションがクライアントデバイス上で X サーバーを使って表示されるように設定されているときは、このオプションを有効にすると X アプリケーションを起動するときのパフォーマンスが向上します。</p> <p>この設定は、Windows クライアントデバイスにだけ適用されます。</p> <p>デフォルトでは、この設定は無効になっています。</p>
プロキシ設定	<p>この設定により、SGD Client が使用するプロキシサーバーの決定方法が制御されます。</p> <p>デフォルトの Web ブラウザ設定を使用すると、デフォルト Web ブラウザ内のプロキシサーバー設定が使用されます。</p> <p>手動プロキシ設定を使用すると、プロファイルにプロキシサーバー設定を定義できます。HTTP プロキシサーバーを指定できます。</p> <p>統合モードでは、Web ブラウザ上でプロキシを設定したあと、プロキシ設定を認識するために Web ブラウザを最低 1 回起動する必要があります。</p> <p>Web ブラウザ上でプロキシを設定すると、設定が保存され、SGD Client の次回起動時に使用されます。</p> <p>「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」が有効な場合、SGD Client が起動するたびにデフォルト Web ブラウザが起動して、プロキシ設定が決定されます。保存済みのプロキシ設定は使用されません。</p> <p>デフォルト値は次のとおりです。「デフォルトの Web ブラウザ設定を使用する」。ただし、「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」は無効になります。</p>
接続障害	<p>SGD サーバーへの接続が失われた場合の、SGD Client の動作を制御する設定 (常に再接続する、再接続しない、接続するかどうかを確認する、のいずれか)。</p> <p>再接続する場合、これらの設定により、接続試行回数および接続試行間隔 (秒単位) が制御されます。</p> <p>再接続できない場合、Webtop セッションは終了します。実行中のアプリケーションは、事前の設定内容に応じて終了または中断します。</p> <p>次のデフォルト設定があります。「常に再接続を試行する」で、試行回数は 6、間隔は 10 です。</p>

## 統合モード動作の設定

「クライアントの設定」タブの次の各設定は、SGD の統合モード動作の設定に使用されます。

- システムログイン時に接続
- 自動クライアントログイン
- 「スタート」メニューへのアプリケーションの追加

詳細については、25 ページの「デスクトップの「スタート」または「起動」メニューからの SGD の使用」を参照してください。

# 用語集

---

この章では、SGD ソフトウェアで使用される用語を定義します。

---

## S

- SGD 管理者** SGD を設定すること、ユーザーの Webtop にリンクを配置すること、およびアプリケーションをセットアップすることができる人。
- SGD サーバー** Web ブラウザを使ってユーザーの Webtop を表示するためにユーザーがログインする SGD ソフトウェア。

---

## W

- Webtop** SGD にログインすると表示される特殊な Web ページであり、アプリケーションに対するアクセスを提供します。
- Webtop モード** Web ブラウザから SGD を実行する場合の動作モード。アプリケーションは、Webtop と呼ばれる特殊な Web ページ内に一覧表示されます。
- Web ブラウザ** SGD にアクセスするためにクライアントデバイス上で起動するソフトウェア。たとえば、Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox。

---

## あ

アプリケーション      サーバー上で実行するプログラム。SGD を使えば、任意のクライアントデバイス上で Web ブラウザを使ってアプリケーションにアクセスできます。

---

## く

クライアントデバイス      SGD 使用時に実行されるハードウェア。たとえば、PC やネットワークコンピュータ。

---

## さ

サーバー      クライアントデバイスにサービスを提供するコンピュータまたはソフトウェア。SGD サーバーを使えば、Webtop を表示できます。Webtop 上に一覧表示されたアプリケーションを実行するサーバーも存在します。

---

## と

統合モード      デスクトップの「スタート」または「起動」メニューから SGD を実行する場合の動作モード。アプリケーションを起動するには、「スタート」または「起動」メニュー内のリンクをクリックします。

---

## は

パスワード      一式の秘密の文字列であり、ユーザー名と一緒にユーザーの ID をサーバーに対して証明します。サーバー別に、別々のパスワード (とユーザー名) を設定することができます。

---

## ふ

プロフィール SGD Client を制御する一群の設定。

---

## ゆ

ユーザー名 サーバーがユーザーを識別するのに使う一意の名前。サーバー別に、別々のユーザー名を設定することができます。

---

## り

リンク Webtop 上のドキュメントおよびアプリケーションに対するアクセスを提供します。通常は、ラベルの付いたアイコンです。





# 索引

---

## A

Apple Macintosh マウス、1 つボタン, 15

## J

Java テクノロジ対応の Web ブラウザ, 2

JavaScript, 2

## P

PDF 印刷, 20

デフォルトビューアの変更, 38

## S

SGD

Client、タスクバーアイコン, 9

スプラッシュ画面, 3

デスクトップの「スタート」メニューにリンク  
を追加する, 25

導入, 1

用語集, 45

ログアウト, 29

SGD Client

手動インストール, 31

タスクバーアイコン, 9

SGD からのログアウト, 29

SSL 接続, 9

## U

「Universal PDF Printer」プリンタ, 20

「Universal PDF Viewer」プリンタ, 20

## W

Web ブラウザ

Java テクノロジ対応, 2

JavaScript 対応, 2

クローズ, 14

Webtop

アプリケーション起動用のリンク, 10

アプリケーションの追加, 8

アプリケーション領域, 8

印刷領域, 8

情報領域, 8

導入, 6

メニューバー, 7

ユーザー名, 9

Webtop モード, 6

Windows アプリケーション, 18

NT ドメイン, 10

Windows ドメイン, 10

## あ

アプリケーション

Webtop への追加, 8

印刷, 17, 18

インスタンス数, 11

エラーメッセージ, 11

起動, 10

グループ, 23, 28

コピー&ペースト, 14

再開, 11, 12

実行, 10  
中断, 11, 12  
取り消し, 12  
認証, 15  
表示の拡大縮小, 14  
「スタート」メニューからの実行, 10, 28

アプリケーションの再開, 11  
アプリケーションの中断, 11  
アプリケーションの取り消し, 11  
アプリケーション領域, 8  
安全でない可能性のある接続, 5

い  
印刷  
    PDF ファイル, 20  
    UNIX プラットフォームアプリケーション, 17  
    Windows アプリケーション, 18  
    印刷ジョブの管理, 16  
    問題のトラブルシューティング, 21  
    ユーザー設定, 38  
印刷領域, 8

え  
エラーメッセージ  
    アプリケーション起動時, 11

か  
拡大縮小可能なウィンドウ, 14

き  
共有アカウント  
    Web ブラウザのクローズ, 14  
    Webtop ユーザー名, 9

く  
クライアントインストール, 31  
クライアントドライブ、アクセス, 39  
クライアントプリンタ、設定, 38  
クリップボード, 14  
グループ  
    作成, 23

け  
ゲストユーザー, 9  
言語、変更, 38

こ  
コピー, 14

し  
    「情報」ボタン, 8  
情報領域, 8  
初期接続ダイアログ, 4  
診断情報, 8

す  
    「スタート」メニュー, 10  
スプラッシュ画面, 3

せ  
セキュア接続, 9

た  
代替 PDF ビューア、指定, 38

て  
デスクトップの「スタート」メニュー  
    アプリケーションリンク, 10  
    SGD の使用, 10, 25, 26, 43  
    SGD へのログイン, 5

と  
統合モード, 25  
匿名ユーザー  
    Web ブラウザのクローズ, 14  
    Webtop ユーザー名, 9

に  
認証  
    アプリケーション, 15

ひ  
標準接続, 9

ふ

プロキシ設定、変更, 38

へ

ペースト, 14

め

メニューバー, 7

ゆ

ユーザー名, 2, 9

よ

用語集, 45

ろ

ログイン URL, 3

変更, 38

